opusdei.org

アレクセイの夢

2006/12/13

彼は5ヶ国語を話す。サンクト・ペ テルブルグ大学で工学と神学の、リ ヒテンシュタインで哲学の学士号を 取得した。さらに、ポルトガル語を 学びたいと思っている。それは、 ファティマで話されている言葉だか らである。そして、司祭になった ら、ロシアの近年の史実と非常に関 わりがあるファティマの聖母の聖地 に、自分の教区の人達を連れて行き たいと思っている。

アレクセイ・ヤンドゥチェブ (Alexey Yandushev-Rumiantsev) は現在、ロシアのカトリック教会の 助祭である。2007年6月に司祭 に叙階されたら、自国の教区司祭に なる夢を実現したいと願っている。

彼は33年前、サンクト・ペテルブルグがレニングラードと呼ばれていた頃、その市のギリシャ正教の家庭に生まれた。両親は彼に宗教教育をしなかった。しかし、彼が15歳の時・・・

「どのような経緯でキリスト者としての、また司祭としての召し出しを 見出したのですか?|

長い話になります。私の家族はギリ シャ正教ですが、余り宗教的ではあ りませんでした。1973年に私が 生まれた時、父はあるスーパーマー ケットのチェーン店の仕事を見つけ たばかりでした。当時の国の状況で は、私に洗礼を受けさせることは、 家族全員に悪影響を与える恐れがあ りました。社会的地位が危うくなる ことでした。受洗を申請した者には パスポートが発行され、その情報が 政府機関や秘密情報機関に伝えられ ていたのです。それで、家族は私に 洗礼を受けさせないことにしたので す。

「それでは、あなたの家庭では宗教 的な事は行われていなかったのです ね。| 私の両親は神を信じていましたが、 私に宗教的な形成を得させるための 特別なことは何もしませんでした。 両親はいくつかの伝統的な事は守っ ていました。年に数回、教会に行 き、家にはいくつかの宗教的な像や 絵がありましたが、それだけです。

「どのような過程で信仰を見出した のですか?」

私の記憶では、12歳の時、信仰に 関心を持ち始めました。"誰か"("何 か"ではなく)を、私が心を向けてい る誰かを信じていました。ある日 、私の手元にソビエト連邦無神論の会 が発行している「科学と宗教」という題の雑誌が届きました。誰にも記 まれていない出版物でしたが、私に とってとても関心があるテーマが じられていました。その雑誌が

宗教についてより何かを知るための 唯一の方法だと直感しました。購読 契約をし、5年間、その雑誌に書か れていることの"行間"を読まなければなりませんでした。

「その無神論のプロパガンダにはど のようなことが書いてありました か?」

大々的な情報提供の中で述べられている事は、基本的には宗教に対する絶え間ない攻撃でした。教会は人々の精神をコントロールし彼らのお金を巻き上げるために、科学的根拠の無い古臭い神話を永続させようとしていました。

「あなたが、その無神論の出版物の"行間"を読んだというのは、どういう意味でしょうか?」

私が関心を持ったのは、その雑誌が 主張している事ではなく宗教につい てでした。ゆえに、論説は無神論を 唱えているのですが、実際は、聖書 を引用し、教会とイエズス・キリス

トについて語っていたのです。私は 他に情報源を持たなかったので、そ の雑誌から何とか情報を得ようとし ました。その雑誌で、或ること又或 る誰かについて非常に悪く述べられ ているなら、そのこと又その誰か は、実際は、さほど悪いものではな いのだろうと思うようになりまし た。これは、オプス・デイについて も再度、証明することができまし た。私はある本で激しい批判を読み ました。その本では又、マルタ修道 会についても批判していました。そ れは危険な組織であると述べ、その 創立について、また、その"リー ダー"が住んでいる本部の住所まで書 いてありました。そこで、私はもっ と情報を得るためにそこに手紙を書 こうと決心しましたが、それは後の こと、私がカトリック信者になった ときのことです。

「あなたは、非常に批判的な精神を 持った青年だったようですね。」 「どのようにしてカトリック教会に たどりついたのですか?|

カトリック教会のことを非常に悪く 言うので、実際に知りたかったので す。電話帳でサンクト・ペテルブル グのカトリック団体の住所を見つけ ましたが、教会はいつも閉まってい ました。数回訪れて、やっと会うこ とができたのですが、司祭は私に疑

いを持っていました。おそらく、 KGBの青年スパイかもしれないと 思ったのでしょう。確かに当時はス パイがいました。しかし、私が度々 教会を訪れているのを見て、話をす るために会う約束をしてくれまし た。それは、私達がミサ後に教会に 残り、教区から大変離れたある場所 まで、いくつかの通りを彼について 行くというものです。そこなら、安 心して話すことができるからでしょ う。1989年のことで、政治状況 が不安定な時期に直面していまし た。それにも拘わらず、カトリック の形成を受けた後、カトリック教会 に完全に所属することを願いまし た。

「しかし、なぜカトリック教会を望 んだのですか?」

私はいつも、人々が複数の教会について話すのを聞いてきました。私はどれが本物だろうと自問していまし

た。聖書を読んでいるうちに、イエズスが唯一の教会を建て、さらに、教会の一致を願っているのだと分かりました。また、キリスト後自身が聖ペトロをその唯一の教会の頭に置いたことを理解しました。教皇様がペトロの後継者であるなら、後は自明の理です。

「その後、どのような道をたどったの ですか?|

学校を卒業して、大学に入学しました。工学の学士号を取得し、続いて、サント・マス・デ・アキリック大学で教会史と哲した。遂に、おりました。遂に、は続いたのです。オプス・デイを苦しめていた敵意に満ちた中に驚いたからです。

「どのような印象を持ちましたか?|

とても良い印象でした。彼らは"宣 伝"をしませんが、その誠実で深みの ある態度から、キリスト者として生 きている意識が伝わってきました。 物事を良く果たすことによって日常 生活において神と出会う、つまり仕 事の聖化を私達ロシア人が知る必要 性を強く感じます。オプス・デイは 私達ロシア人に、非常に良い影響を 与えることができると確信していま す。キリスト者は常に自分を形成し ていく必要があるという考え方にと ても魅かれます。それは、私達に必 要なことです。

「神学校に入る決心をした経緯を教 えてください。」

私は誰にも話しませんでしたが、 ずっと以前から私の頭の中を巡って いた考えでした。不可能だと思って いました。大きな危険に身をさらす ことになるので、そのような状況で はないと思ったからです。すでに学 問を終えて、外国にも一年間滞在し て、リヒテンシュタインで哲学(現 象学)を学び、働いていました。し かし、ある日何かの折に、ある司祭 が私に「司祭になる気持ちはありませ んか?」と尋ねました。私は直ちに 「いいえ」と答えましたが、その夜 は一睡もできませんでした。その司 祭と再度会って話し、自分の思いを 述べました。実のところ、司祭にな ることを考えていたが、そのための 能力もないし、自分がふさわしいと も思わないと言いました。彼は私 に、力は神が与えるのだと言いまし た。そして、その年2000年の末 に神学校に入りました。来年、神が 望まれるなら、司祭になります。

「現在、ロシアの宗教的状況はどうで すか?」

1989年に共産主義が崩壊した後は、精神的には実に春を迎えています。今日、その現象は確実に広がり

を見せています。つまり、当初の一時的な興奮ではなく、今が真にあるべき姿と確信している者だけが残っているからです。とはいえ、実際に"神のこと"に関心を示している人がたくさんいるということを心に留めておかねばなりません。

「ギリシャ正教とカトリックとの関係はどうですか?」

人々と場所によります。たとえば、 サンクト・ペテルブルグは伝統的に 非常に寛容で、対話の意志がありま す。おそらく、他の都市ではないこ とでしょう。今年になって、対話は より進展し、私達に大きな希望を与 えています。

「カトリックに対して偏見はありま すか?」

神話的通念や固定観念がある程度です。たとえば、「ダ・ヴィンチ・ コード」は福音書に関する疑いは引 き起こしませんでしたが、カトリック教会について疑いをもたらしたと言えます。でも、大丈夫です。忍耐を持って話せば、誤解は解けます。

「今現在のあなたの夢は何ですか?」

ロシアに仕えるカトリック司祭になることです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/arekuseinomeng/ (2025/12/15)